



写真1 條ウル神古墳の石室と石棺
(奥壁方向)

大正5年(1916年)刊行の『奈良縣史蹟勝地調査會第三回報告書』に、当時の奈良縣技手 西崎辰之助によって「條ノ古墳」として報告された本墳は、従来必ずしも正当に評価されてきたとはいえませんでした。

それは、石室・石棺の規模いずれもが、にわかには信じがたいほど大きなものであること、また、家形石棺の蓋側面の縄掛突起が通常2つずつであるのに対し、略報では3つずつ計8つとされており、ほかにはほとんど例がみられないことなど、資料としての信用性を疑問視する人が多かったからです。その後、古墳と周辺地形が著しく改変される中で、古墳の所在そのものも判然としなくなっていましたので、平成13年度に石室の所在と現状を確認するための調査を実施しました。



文化財課
☎60-1608

其の四十五

古墳時代(33)
巨勢(許勢)氏の
台頭(5)
條ウル神古墳の被葬者像①



写真2 條ウル神古墳の石室と石棺
(入口方向)

狭い盗掘孔が閉塞石部分にあつて、そこから身体を擦りながら石室内に入つて眼前に広がった世界は、まさに驚くべきものでした。西崎報告の通りの巨大な石室と石棺が厳然とそこに存在したからです。

石室内には、かつて水がたまっていたことを示す成水層がまだ厚く堆積しているために、正確な数値はわかりませんが、現状での横穴式石室の玄室規模と、そこに納められた家形石棺の大きさは表に示す通りです。條ウル神古墳の石室・石棺はその型式から6世紀後葉の築造とみられま

す。それぞれの大きさの比較のため、同表にはほぼ同時期の古墳も例示しておきましたが、いずれも石室・石棺とも最大もしくは最大級と呼ぶに相応しく、例えば、見瀬丸山古墳は仏教公伝で有名な欽明天皇、石舞台古墳は先月号で推古天皇とのやりとりを記した蘇我馬子の墓とする説が有力です。

それでは條ウル神古墳に葬られた人物は誰と考えるのが妥当でしょうか。先月号で述べた通り、蘇我氏は遅くとも條ウル神古墳が築造された直後の時期には葛城の一角に進出してきているようです。

一方で、3月号以降述べてきた通り、継体天皇擁立に深く関わって、急速に力を伸ばしてきた有力豪族、巨勢氏も、條ウル神古墳の被葬者として有力な候補です。

次号以降、條ウル神古墳の被葬者像に迫りたいと思います。

(文責 藤田和尊)

横穴式石室(玄室)の規模の比較表(単位:m)

古墳名	所在地	長さ	幅		高さ
			(奥壁)	(玄門)	
見瀬丸山	橿原市五条野町	8.3+α	4.1+α	3.6+α	3.9+α
石舞台	明日香村島/庄	7.6	3.4	3.4	4.8
條ウル神	御所市條	7.1+α	2.4+α	2.7+α	3.8+α
塚穴山	天理市勾田町	7.0	3.0	3.0	不明

家形石棺 蓋の大きさ比較表(単位:cm)

古墳名	所在地	全長cm		幅cm	高さcm
		(275)	(270)		
見瀬丸山(前棺)	橿原市五条野町	289	(275)	145	63
條ウル神	御所市條	278	(270)	147	53
植山(東石室)	橿原市五条野町	270	(260)	158	62
赤坂天王山	桜井市倉橋	264	(255)	170	55

()内は縄掛突起を除く数値

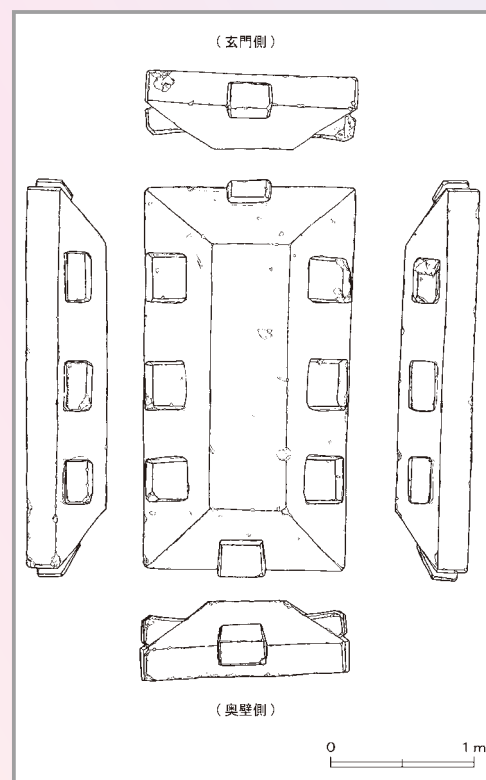


図1 條ウル神古墳の家形石棺の蓋